

# ましまの風

発行者 杵藤農林事務所杵島農業改良普及センター

佐賀県杵島郡白石町大字東郷2546-2

TEL0952-84-3625 FAX0952-84-6425

E-mail : kitounourin@pref.saga.lg.jp

URL :http://www.pref.saga.lg.jp/list02464.html

平成29年2月

第44号

## 21世紀の主役たち

## 夢のある農業経営を!!



「平成28年度TK4HアグリマネージメントCLUB冬のつどい」を、1月27日に開催しました。今年も、クラブ員や就農希望の高校・農業大学生らの70名の前で、クラブ員5名が堂々とした発表をおこないました。「農業青年の提言」では、「これからの夢と希望」をテーマに4名が発表されました。白石青年実業会の永松惇平さんは、言われた作業をやるだけでなく、自分の仕事をしたいと思うようになり「洗いしんこん」を自分の名前を出荷するようになった事、人と人とのつながりを大切にしながら、将来的には独立して経営面積を増やしていきたい事など、自らの思いを熱く発表され、最優秀賞を受賞されました。また、優秀賞には、農家の3代目として、やりがいのある農業経営を目指していきたいと発表された白武淳一さん、ブロッコリーの栽培を増やし、直売所での販売にも取り組んでいきたいと発表された山口信秀さん、キャベツの栽培を通してプラス思考で経営の発展に取り組んでいきたいと発表された草場広大さんが選ばれました。

「経営発展プロジェクト」では青実会の吉原亨史さんが、近年のタマネギの収量低下について、生育不良の要因と、産地の維持のためクラブ員でも青実会のOBの指導を受けながら生育の改善に取り組んでいる事などの活動発表を行い最優秀賞に輝きました。

最優秀賞の永松さんと吉原さんは、2月22日に神埼で開催される佐賀県農業青年冬のつどいで杵島地区代表として発表されます。





# 佐賀農業賞 受賞者紹介

**最優秀賞、九州農政局長賞 若い農業経営者の部**

白石町 木室 哲郎氏

木室さんは、タマネギを中心とした土地利用型経営をされています。平成24年に就農後、規模拡大を進め、就農時の2倍以上の規模に拡大し、平成27年度は、タマネギ13ha、米12haの作付けを行っておられます。露地野菜栽培では、①排水対策及び土作り②適期防除③圃場巡回を徹底し、安定的な収量の確保を目指されています。将来を見据え、ICT機材を導入し作業者間の情報の共有や無駄のない肥料及び農薬の散布を行うようにし、今後の経営の発展の一因担っていると語ります。

また、地域の農業者でつくる「菜の花ファーム」の一員であり、共同で菜種油の加工を委託し、新たな特産品の創出など地域活性化にも一役をかっておられ、将来の地域リーダーとして更なる経営の発展と地域振興に活躍されることをご期待しています。



**優秀賞 先進的農業経営者の部**

江北町 農事組合法人ライフメイト

農業の担い手が減少する中、地域で耕作できなくなつた農地や農作業の積極的な受諾により地域の重要な担い手、リーダーとして地域農業振興に寄与されています。また、県内外の多数の農業研修生受け入れや江北町の空き家対策とも連携した都市の移住希望者への農業提案による意欲ある新規参入者の発掘にも取り組まれるなど、農業の担い手の確保・育成による地域農業の発展に多大な貢献をされています。今後増加が見込まれる集落営農法人や土地利用型農家が水田農業で高所得を実現するための模範として益々の活躍が期待されます。





# 農事功績者表彰 緑白綬有功章受章

武雄市 山口 仁 司 氏

平成28年度の農事功績者表彰事業で武雄市の山口仁司氏が緑白綬有功章を受章されました。この章は、長年にわたる努力と創意工夫によって確たる経営を築きあげられるとともに、地域のリーダーとして、産地の発展や青年農業者の育成など、農村地域社会に大きな貢献された方々に対し、秋篠宮文仁親王殿下の御名により授与されるものです。

山口氏は、施設キュウリ栽培において、ICTを用いた複合環境制御と匠の技術の融合による多収技術を確立され、そのノウハウをオープンにすることにより、部会や県を超えた技術の普及に貢献されています。

また、農業後継者や新規就農希望者の研修受け入れにより、多数のキュウリ農家を育成してこられました。現在進められている新規就農者育成施設の設立にも尽力されており、今後の活躍に期待しております。



## 優秀賞

組織・集団の部

白石町 JAさが白石地区小ネギ部会

平成20年の部会設立以降、安定した品質と出荷量で白石小ネギのブランドを確立してこられ、現在は、次の課題である出荷調整のさらなる省力化と商品化率向上に向けた契約販売や加工用出荷の検討を始められています。また、町と連携し、新規栽培者の確保にも積極的に取り組まれており、部会組織の活性化にとどまらず、地域の活性化にもつながる取り組みをされています。今後、益々の発展が期待されます。





# 地域情報コーナー

また、近年は収穫前に降雨が多く、湿害や草勢低下の株が多く見られます。防除による病害対策と合わせ、土入れや溝切り(明渠)などを行って圃場排水の向上と湿度低下を図りましょう。

図 各種薬剤による2次伝染の抑制効果 (H28農業試験研究センター試験結果)

薬剤名 (成分名)	薬剤散布					防除価	
	3/1	3/8	3/15	3/22	3/29	3/31	4/7
ジマンダイセン水和剤 (マンゼブ)	●	●	●	—	—	94	74
リドミルゴールドMZ (マンゼブ, メタラキシルM)	—	—	●	●	●	33	33
ダコニール1000 (TPN)	●	●	●	—	—	68	40
フォリオゴールド (TPN, メタラキシルM)	—	—	●	●	●	26	19
プロポーズ顆粒水和剤 (TPN, ベンチアバリアルイソプロピル)	●	●	●	—	—	35	10
	—	—	●	●	●	1	10
	●	●	●	—	—	29	12
	—	—	●	●	●	25	8
	●	●	●	—	—	95	51
	—	—	●	●	●	47	42

各農薬の上段はべと病菌感染前の散布、下段は感染後の散布であり、「防除価」が高い数値であるほど農薬散布の防除効果が高いことを示しています。この結果から、べと病防除には、病原菌が感染する前からの予防散布の効果が高いことがわかります。



2次伝染株



排水溝切り (明渠)

**タマネギべと病に注意!**

近年発生が多くなっているタマネギべと病には、年内を中心とした1次伝染と、春先の2次伝染があります。本年も1月に1次伝染株が確認され、今後の気温上昇に伴い、2次伝染による病害の拡大が懸念されます。2次伝染の起こる条件としては、伝染前の予防防除が重要です。2次伝染の起こる条件としては、気温が15℃前後で雨や曇りの湿度が高いときとなっています。しかし、現状では伝染時期の予測が難しいため、各地の暦を参考に2月下旬からの定期防除に努めてください。

**カモ対策! うまくいくかも**

白石地域の蓮根は佐賀を代表する農産物としてその地位を確立していますが、近年、カモによる被害が問題となっています。カモの食害対策としては、防鳥網やテグス、吹き流しなどの取組みが実施されているところであります。今回、国の研究機関から講師を招き現地研修会を行った結果、防鳥網を用いた対策の有効性を確認しました。そこで普及センターでは白石地区蓮根部会や農協の協力のもと、防鳥網を用いたモデル園を設置して効果を検証しています。また、今後は春期の蓮根芽の食害対策についても効果を検証する予定です。その他、鳥獣害でお困りの際は普及センターにご連絡を!



強力防鳥網を用いたモデル園



現地研修会の様子